令和５年度卒業時アンケート調査の結果について

令和６年４月 19 日
函館大谷短期大学教学マネジメント委員会

令和６年３月１５日に卒業した函館大谷短期大学卒業生を対象に実施した卒業時アンケート調査（短大での学びに関するアンケート）についての調査結果及び分析を以下に示す。

１．アンケート回収数及び回収率

アンケート回収数　60（内訳：コミュニティ総合学科 18，こども学科 33，学科未記入 9）
アンケート回収率　92%

２．学生の課程全体を通じた成長実感

学生の課程全体を通じた成長実感について，成長した 5－どちらともいえない 3－成長できなかった 1 の５件法で質問した。

○　全体平均 4.7　（コミュニティ総合学科 4.6，こども学科 4.7）

平均から考えると，本学卒業生は本学の教育課程全体を通じて，自らの成長を感じているものと考える。

３．学生が成長を実感する観点について

３－１　ディプロマポリシーとの関連から

学生が本学の教育課程全体を通じて成長したことについて，本学ディプロマポリシーを基に，８つの選択肢を示し，当てはまるものすべてに○をするよう求めた（表１：学生に提示した選択肢と本学ディプロマポリシーとの関連）。

大学全体，コミュニティ総合学科及びこども学科の総数に対する回答者数の割合を表２に示す。

表１　学生に提示した選択肢と本学ディプロマポリシーとの関連

学生に提示した質問項目	質問項目に対応する本学ディプロマポリシー
①様々なことに関心がもてるようになった	主体的に地域・社会にかかわっていくための関心が育まれたか
②様々なことに意欲が湧くようになった	主体的に地域・社会にかかわっていくための意欲が育まれたか
③ひととして成長した	主体的に地域・社会にかかわっていくための人間性が身についたか
④色々な知識を身に付けた	身に付けた知識を十分に自覚することができたか
⑤自分の知識が発揮できるなどと感じることができた	身に付けた知識を地域・社会において適切に発揮できたか
⑥自分のよさが実感できるようになった	自分のよさや成長に目を向けることができたか
⑦自分のやりたいことが見つかった	地域・社会のために貢献するための自らの目標を見いだすことができたか
⑧その他	

表２　学生が成長を実感する観点１
大学全体，コミュニティ総合学科及びこども学科の総数に対する回答者数の割合（%）

本学ディプロマポリシー	大学全体	コミュニティ総合学科	こども学科
①主体的に地域・社会にかかわっていくための関心が育まれたか	61.7	72.2	57.6
②主体的に地域・社会にかかわっていくための意欲が育まれたか	31.7	22.2	42.4

③主体的に地域・社会にかかわっていくための人間性が身についたか	70.0	77.8	72.7
④身に付けた知識を十分に自覚することができたか	65.0	83.3	66.7
⑤身に付けた知識を地域・社会において適切に発揮できたか	21.7	16.7	24.2
⑥自分のよさや成長に目を向けることができたか	26.7	16.7	30.3
⑦地域・社会のために貢献するための自らの目標を見いだすことができたか	31.7	22.2	42.4
⑧その他	1.7	5.6	0

全体を通して，主体的に地域・社会にかかわっていくための関心・意欲・人間性については，関心及び人間性については，成長を実感できていることが示唆された（表２①③）。しかし，意欲については実感しにくいことが明らかになった（表２②）。身に付けた知識の自覚及び発揮については，知識を自覚することはできているものの，その発揮についてまでは意識化されていない様子がみられた（表２④⑤）。自分のよさや成長に目を向け，地域・社会のために貢献するための自らの目標を見いだすことについては，実感が得づらい様子が見られた（表２⑥⑦）。学生の指導に当たっては，学生の意欲や学びの発揮の場の明確化，自らの成長に目を向けるためのアプローチが必要であると考えられる。

３－２　学科の特性の視点から

コミュニティ総合学科及びこども学科の全回答数に対する各項目の回答者数の割合を表 3 に示す。

表 3　学生が成長を実感する観点 2
コミュニティ総合学科及びこども学科の全回答数に対する各項目の回答者数の割合（%）

本学ディプロマポリシー	コミュニティ総合学科	こども学科
①主体的に地域・社会にかかわっていくための関心が育まれたか	22.8	17.1
②主体的に地域・社会にかかわっていくための意欲が育まれたか	7.0	12.6
③主体的に地域・社会にかかわっていくための人間性が身についたか	24.6	21.6
④身に付けた知識を十分に自覚することができたか	26.3	19.8
⑤身に付けた知識を地域・社会において適切に発揮できたか	5.3	7.2
⑥自分のよさや成長に目を向けることができたか	5.3	9.0
⑦地域・社会のために貢献するための自らの目標を見いだすことができたか	7.0	12.6
⑧その他	1.8	0

コミュニティ総合学科においては，主体的に地域・社会に関わっていくための関心及び人間性，知識の自覚化に関する回答数が顕著に多い（表 3①③④）。日常のゼミ活動や資格取得を自ら選択できるという学科の特色と関連しているものと考えられる。こども学科においては，主体的に地域・社会にかかわっていくための人間性，身に付けた知識の自覚化，自らの目標を見いだすことに関する回答数の多さが特徴的である（表 3③④⑦）。日常の学科教員のかかわりや取得する資格の明確化といった学科の特色と関連しているものと考えられる。

４．学生の成長を促す教育活動

学生の成長を促す本学の教育活動について評価するために，本学が学生に対して用意している教育活動や，成長に関連しているであろうと考えられる活動に関する選択肢を示し，当てはまるものすべてに○をするよう求めた。大学全体，コミュニティ総合学科及びこども学科の総数に対する回答者数の割合を表 4 に示す。

表４　学生が認知している成長するきっかけとなった経験
大学全体，コミュニティ総合学科及びこども学科の総数に対する回答者数の割合（%）

成長するきっかけとなった経験	大学全体	コミュニティ総合学科	こども学科
①講義を含む勉強	40.0	26.1	38.1
②本学教職員とのかかわり	46.2	60.9	35.7
③資格取得	29.2	17.4	28.6
④サークル活動・学友会	35.4	34.8	35.7
⑤ボランティア活動	6.2	8.7	4.8
⑥友人関係等	38.5	21.7	42.9
⑦アルバイト	32.3	26.1	28.6
⑧実習・インターンシップ	40.0	34.8	40.5
⑨就職活動	24.6	34.8	19.0
⑩学内行事等	12.3	0	16.7
⑪その他	1.5	4.3	0

大学全体においては，講義を含む勉強及び実習・インターンシップが最も学生の成長を促していると考えられ，本学に用意されている主要な教育課程は，学生の成長に確実に寄与していると考えることができる。また，それ以上に本学教職員とのかかわりは有効であることが確認され，本学の重要な学生サポートの資源であると考えることができる。

コミュニティ総合学科においては，本学教職員とのかかわりに関する回答数が顕著に高く，ゼミ活動や，学科において用意されている各活動が学生の成長に顕著に寄与していると考えることができる。こども学科においては，友人関係等に関する回答数が顕著に高く，友人関係を促進する支援が学生の成長に有効であると考えることができる。

５．学生の課程全体を通じた満足度

学生の課程全体を通じた満足度について，満足している 5－どちらともいえない 3－満足していない 1 の 5 件法で質問した。

○　全体平均 4.6　（コミュニティ総合学科 4.4，こども学科 4.7）

平均から考えると，本学卒業生は本学の教育課程全体に対してある程度満足しているものと考える。